

令和5年度 学校関係者評価表

学校番号	104	学校名	浜松市立高等学校
------	-----	-----	----------

スクール・ミッション	<p>政令指定都市浜松唯一の市立高校として、文武両道の教育方針のもと「学業」と「人間性」の両面においてバランスのとれた教育を実践する「規律ある進学校」を目指し、グローバルな視野をもつリーダーとして広く社会の発展に貢献できる人間を育成する。</p>
スクール・ポリシー	<p>〈グラデュエーション・ポリシー〉</p> <p>①文武両道の教育方針のもと、知・徳・体のバランスのとれた人間を育成する。 ②基礎的学力を十分に備え、自ら考え、判断し、行動できる人間を育成する。 ③グローバルな視野をもつリーダーとして、広く社会の発展に貢献できる人間を育成する。</p> <p>〈カリキュラム・ポリシー〉</p> <p>①ICT教材の活用やAL型授業を通して、他者と協働して学び、思考し、判断し、表現する力と確かな学力を身に付ける。 ②総合的な探究の時間「浜市総合講座」を通して、地域社会との関わりから自ら課題を設定し、その解決能力を高め、自己の未来を切り拓く力を身に付ける。 ③生徒主体の生徒会活動や学校行事を通して、他者と協議しながら、自ら参画し、判断し、実現する、主体的に取り組む力を身に付ける。</p> <p>〈アドミッション・ポリシー〉</p> <p>①高い学習意欲を持って己を高め、自ら課題を見つけて、仲間と共に解決しようとする生徒 ②規律ある生活態度を身に付け、文武両道を目指して鍛錬に努めるとともに、学校生活のあらゆる場面に、自ら参加しようとする意欲を持つ生徒 ③地域から世界への視点を持ち、国際社会においてリーダーとしての活躍を目指す生徒</p>

評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった

今年度の取組(目標具現化の柱 スクールポリシー)	総合評価
<p>ア 校訓「誠・愛・節」のもと、規律、責任、品位ある生活態度を定着させる。</p> <p>イ 知識・技能のほか、学ぶ意欲や自らで課題を見つけ課題を解決できる確かな学力及び情報活用能力を育成する。</p> <p>ウ 家庭や地域社会等と連携して「社会に開かれた教育課程」を実現し社会に貢献できるリーダーとしての資質・能力を育成する。</p> <p>エ キャリア教育を推進し、高い志のもと進路を確実に実現する力を育成する。</p> <p>オ 安心・安全な教育環境を整備する。</p> <p>カ ICT化及び業務改善を推進し、研修の充実により教職員の資質能力・学校組織力の向上を図る。</p>	B

新型コロナウイルス感染症が5類となり、学校運営に制限なく取り組むことができた。「学校生活に満足している」について生徒・保護者ともに9割以上が「当てはまる」「やや当てはまる」との回答を得た。その他の項目についても生徒・保護者ともに概ね8割以上の満足度を示している。来年度は全学年で「一人一台端末」が導入される。端末を有効的に活用し、生徒の学力・能力を育めるようにさらに努める。

NO	取組手段	成果目標	評価	成果と課題
ア	<ul style="list-style-type: none"> ・「校門一礼」や挨拶の励行 ・正しい服装・言葉遣い指導 ・日常の交通安全指導、携帯安全教室・サイクルマナー教室の実施による事故やトラブルの未然防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・「挨拶や言葉遣いはしっかりできている」「交通ルールやSNSのマナーを守る」等と答える生徒の肯定的自己評価を100%に近づける。 ・交通事故発生前年比10%減 	B	<p>きめ細やかな指導により、多くの生徒は落ち着いた生活を送れているが、一部規律ある日常生活が確立できていない生徒がいる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路ダイアリー」「進路資料」を活用する。 ・主体的な家庭学習の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路ダイアリー」「進路資料」を活用していると答える生徒90%以上 ・月に2回以上家庭学習時間調査を実施し、生徒個々に適切な助言を行う。 	A	<p>日々の学習計画、反省に「進路ダイアリー」を活用した。活用方法は担任に任されているが、より有効的な活用検討の余地がある。また、「進路資料」は総合的な探究の時間を中心に活用し、進路実績を確認し、志望校決定の一助とすることができた。加えて、面談の際にも利用されている。</p> <p>毎月2回、学習時間調査を確実に実施した。来年度に向けて調査結果を指導に反映することが必要と考えられる。3年生は家庭学習時間調査は実施していないが、長期休暇の計画表作成や受験スケジュール作成・確認・助言は行っている。</p> <p>進路志望調査は春・夏と実施した。進路希望調査や夏休みの三者面談の結果をもとに進路講演会の内容を作成した。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃指導を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「清掃をしっかり行っている」と答える生徒90%以上 	B	<p>アンケート結果は95%だった。教員の不在で差があるなど、生徒全員がしっかり取り組んでいるかは疑問が残る。生徒自身の意識を変えることが必要である。2カ所を一人で担当するなど監督者の負担が大きいところやミスマッチがある。必要な箇所については清掃分担の見直しをする。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年において初期・中期指導を実施し、勉強と部活動時間のバランス・心身の健康管理のとれた規則正しい生活習慣を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年集会学期に2回以上。 ・「原則部活動時間19時まで」を徹底する。 ・定期試験一週間前までの特別許可以外の部活動禁止を徹底する。 	A	<p>各学年で学期に2～3回以上学年集会を実施し、学年の目標や規則正しい生活習慣、学習と部活動とのバランスなどそれぞれの学年であるべき姿を涵養することができた。</p> <p>部活動においてはテスト前の活動や終了時間のルールを守り、バランスの取れた活動を実施することができた。しかし、コロナ5類移行に伴い様々なものが緩和されたことで、中学校以来経験できていなかった活動が復活しバランスを崩す場面も生じた。</p> <p>定期テスト1週間前は図書館を18:50まで延長開放した。各学年とも利用している生徒がいるので、次年度も継続する予定である。</p>

	取組手段	成果目標	評価	成果と課題
イ	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細やかな学習指導の実践 ・課題解決する力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業では学力を伸ばしてくれる」と答える生徒90%以上 	B	<p>「授業では学力を伸ばしてくれる」と答えた生徒の割合が90%に届かなかった。生徒一人一台端末の導入も2年生まで進んだことから、生徒の思考力・判断力・表現力、主体性を伸ばす学習内容の共有、またICT機器を活用した生徒の活動を促す学習の実践事例や専門的知識に関する職員研修をさらに増やしていくことが必要である。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導を推進し、学力伸長を図る。 ・新しい大学入試に対応した指導の実施(授業・検定・進路課外等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路指導が適切に行われている」と答える生徒90%以上 ・平日補習、土曜補習、夏休み補習の講座を充実させる。 	B	<p>「進路指導が適切に行われている」と答える生徒の割合が90%にわずかに届かなかった。補習は全学年の受講率が減少した。ただし自己都合や無断欠席の数は減少した。塾やスタディサプリなど学習機会があふれている中で、土曜補習という形で学校で実施する意義を再考する必要がある。難易度の高い問題への挑戦よりも復習の機会を求める生徒も増えている。補習の在り方についても検討する必要性を感じる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル人材の育成 ・国際理解教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・エンパワーメントプログラムの充実・満足度90%以上(・留学の支援) 	C	<p>エンパワーメントプログラムは参加者が集まらず実施しなかった。また、留学生の受け入れもなかった。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動を推進し、思考力・判断力・表現力を身につける。 ・将来に必要な知識・教養を獲得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルの実施 ・「朝読書」の主体的な実施 ・「図書室の蔵書は充実している」と答える生徒85%以上 	A	<p>授業日は基本的に「朝読書」を実施しており、ビブリオバトルを通して本への関心や人に説明する表現力を高めることができた。生徒が読書に親しむよう、図書課職員が本を推薦する活動を行った。図書室を学習目的に利用する生徒が多い点はよいが、読書や資料調べの場としても活用してもらえぬ工夫が必要である。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善を推進する。 ・観点別評価への対応を進める。 ・ICT機器を使用した授業の研究を推進する。 ・アクティブラーニング型の授業・ICT機器活用授業の研究を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開一人年間1回以上、授業参観3回以上。 ・観点別評価に係る検討・改善の推進。 ・生徒による授業評価2回実施。 ・市教委・県教委の事業を利用した研修・授業検討会の実施 ・外部の研修講座等への参加の呼びかけ 	A	<p>授業担当教員の全員が授業公開を行った。3回以上の参観については、授業担当教員の90%が実施した。教育課程検討委員会では、月1回全教科主任が集まり、各教科における観点別評価における評価方法や評価規準の在り方について意見交換をし、授業改善や課題を中心に、校内全体で情報共有や専門的な知識を深めることができた。授業評価は全教科が2回実施し、各学期の比較検討を行った。他校の授業公開、講座等への参加の呼びかけを実施した。都市立高校合同研修会へも参加した。来年度もアクティブラーニングの意義の伝達とさらなる推進を図る。進路・進学指導講演会などの参加を呼び掛けた。参加後は、各教科、学年、生徒に情報提供、還元した。</p>

	取組手段	成果目標	評価	成果と課題
ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・進学校としての部活動の充実 ・社会貢献活動を推進し、人権意識を高め、思いやりある豊かな心を育む。 ・生徒が他者・外部と関わり合うことを大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「部活動は充実している」と答える生徒90%以上 ・県大会以上出場20部活以上 ・年間で1回以上社会貢献活動(地域貢献活動・協働・連携等 自治会や同窓会との連携含む)を行う団体(部活動・委員会等)20以上 	A	部活動の充実度は90%を超え、全部活動が県大会へ出場し、社会貢献活動にも多くの団体が参加し、実施することができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動、学級活動、行事、部活動を通じ、社会で必要とされる資質能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校行事が充実している」と答える生徒90%以上 	A	学校行事の充実度が90%を超えている。来年度以降も精選しながら行事を行っていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事掲載への働きかけ ・広報誌「いちりつプレス」やHP ・ブログ等を活用し積極的かつタイムリーに情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事掲載20回以上 ・掲載記事校内掲示2か所以上 ・ブログアクセス数月250回以上 	A	様々な活動について新聞に20回以上取り上げられた。ブログ、ホームページ、「いちりつプレス」にはタイムリーにきめ細やかな情報発信ができ、学校の様子を詳細に広報することができた。
エ	<ul style="list-style-type: none"> ・体系的な進路行事の充実 ・総合的な探究の時間の充実 ・SDGsやESDの意識や推進 ・郷土愛、職業観の醸成 ・主権者教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の体系化・カリキュラムマネジメントの推進 ・大学模擬授業1回、大学見学2回、職業研究会、「浜市ふるさと講座」・政策提言の実施 	B	<p>大学模擬授業は、静岡県内と愛知県の国公立大学を中心に14の講座を開講し、生徒も熱心に聴講していた。大学は出張講座に前向きであり、多くの大学から案内が来ているので、大学を検討する余地がある。</p> <p>数年前ぶりに名古屋大学見学会を実施した。卒業生も大学の各研究室も非常に協力的で、3年生も含めて約80名の生徒が進路意識を高める経験をすることができた。総合的な探究の時間の内容を精査し、各プログラムはほぼ計画通り実施できた。政策提言のワークを通して、生徒は主権者としての自覚と地元浜松の未来を創る意識を高めた。また、進路実現に向けて生徒たちが主体的に探究活動に取り組むことができた。</p> <p>内容の体系化に関しては、各学年での目標と3年間のビジョンの両面から考えるべきで、今後も継続的に検討、改善していく必要がある。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験を大事に受験する。 ・個別試験対策(論述等の指導)の充実により、難関大学挑戦の生徒を支援。 	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験受験後に復習していると答える生徒90%以上。自宅受験を極力減らす。 ・入学時の志望進路の実現率60%以上。 	B	<p>各教科や担任を中心に、模擬試験に対してその意義や重要性を伝達し、復習の機会が与えられた。また、学年通信・Google Classroomを通して分析や学習方法のアドバイスを発信した。</p> <p>1・2年生の11月模試は部活動の大会と重なり、自宅受験者が多かった。3年生は高校総体とバランスを考えて5月模試を不受験可とすることで昨年度と比べると欠席者は減少した。受験科目の変更についての指導が課題である。</p> <p>12月末までにのべ74名の個別指導を実施した。1/10現在、国公立大学合格者は11名。小論文や志望理由書等、受験生の考えを求めるものが増えており、個別指導の対象者や申込方法、指導担当の振り分け方を引き続き検討する必要がある。</p>

	取組手段	成果目標	評価	成果と課題
オ	<ul style="list-style-type: none"> ・学校事故の防止、特に熱中症に対する教職員及び生徒の注意意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症講座の実施年1回 ・5～10月熱中症計で計測し、毎週提出(夏季休業除く)する。 	A	熱中症講座や熱中症計による計測は継続実施できており、気温が上昇する日中をできるだけ避けて活動計画を立てる部活もあり、意識は高められている。まだ実際の活動には差があるところもあるので、継続して働きかける。
	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育・安全教育の充実 ・開かれた学校づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルや危機管理マニュアルを再点検し、改訂する。 ・学校安全計画の策定及び安全教育の実施 ・防災訓練・防災教育年3回以上。 	A	市の防災マニュアルの内容に合わせ、災害時における生徒の掌握方法の変更を行った。防災訓練は、避難訓練だけでなく防災倉庫の点検、防災用品の確認や試食を行い生徒に周知することができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・1分間カウンセリングの実施 ・個人面談の充実 ・SCとの連携による相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生9月に実施 ・個別面談年間2回以上。 ・正副担任・学年主任等との情報共有 ・「教師は悩みや相談に親身になってくれる」と答える生徒90%以上(生徒・保護者に対する相談対応の満足度) 	A	9月から10月にかけて1年生の1分間カウンセリングを事前アンケートをふまえて実施した。短時間のためどこまで汲みとれたかは分からないが、担任との迅速な情報共有を継続したい。これに限らず、生徒の抱える問題を担任や学年で随時共有することができた。進路面談も含め個別面談を年2回以上実施し、生徒・保護者との情報共有に努めることができた。「悩みや相談に親身になってくれる」と答える生徒・保護者が85%以上と概ね達成できた、と感じる。今後は「感じない」部分を精査し、次年度に評価基準(世の中の風潮や90%という基準の立て方)を検討する必要がある。3年生は、担任会を通して進路情報を提供・確認し、各クラス担任が行う面談に生かしている。生徒からSCとの面談を申し出てくるのが例年より多かった。学年や部活など各方面と連携して対応できた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内外の美化・清掃や校内施設・設備の点検 ・学習環境及び設備等の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検学期に1回以上、不備な箇所改善 ・清掃用具点検年間3回以上 ・環境整備委員会の活動年間6回以上 	B	教室環境の整備については、引き続き生徒用の机と椅子の更新を進めたが、年間1クラス程度にとどまり時間を要している。また、タブレットパソコンの導入による生徒用ロッカーの更新も検討したい。PTAの協力を得て、設備の点検清掃を行うことができた。清掃用具点検は呼びかけし、必要な用具を補充できた。環境整備委員会は行事前後など様々な場面で活躍した。常時活動の石鹸補充が2学期には十分行えていなかったため、活動の徹底・定着を図る。

	取組手段	成果目標	評価	成果と課題
カ	・年間計画における行事等の配置や内容を見直す。	・各学年・分掌、課長主任会等で意見の集約を図る。 ・教職員の本来業務(生徒に向き合う・指導の準備等)の時間確保のため、学校業務の整理・縮減を進め、出退勤時間の適正化に努める。	B	コロナ禍後の年間を通した行事の精選や授業時間の確保は、かなり具体的に定めることができた。今後は新教育課程における教育目標の達成のため、生徒の主体的な学習活動時間の確保と職員の働き方改革の両方を鑑みて、適切な見直しをさらに進める必要がある。 ほぼ毎週、生徒課会議を開催するなど、各学年や各分掌などで問題点の共有や生徒に関する情報交換をすることができた。 教職員の業務整理・縮減については来年度も引き続き検討が必要である。
	・計画的に部活動を実施する。	・部活動計画表の作成(年間又は各月) ・各部活動月平均8日以上休養日の設定(年間を通じて)	A	各部活動で計画に沿った活動ができた。
	・情報の一元化の推進 ・教育課題等を共有し、組織的に解決していく。	・共有フォルダを整理する。 ・課長主任会・課会・学年会・各種委員会等を活性化し着実に問題解決をしていく。	A	今後も引き続き、デバイス制御や改正個人情報保護法について学校の取り組みを検討・周知を継続していく。Google work spaceの教職員ドライブ、生徒ドライブの有効な活用を考える。
	・学校評議員、保護者アンケート等の評価及び意見を、学校づくりに活かす。	・「学校生活に満足している」と答える生徒90%以上。	A	「当てはまる」「大体当てはまる」と答えた生徒の割合は93.3%であった。
	・生徒一人一台端末導入に向けて、整備や研修を進める	・仕様や活用ルール等具体想定して内容を詰めていく。 ・導入研修の実施	A	「一人一台端末」の活用促進のための職員研修を2回実施した。また、他県の先進校視察を行い、全職員に還元することができた。 学年進行とともに端末の利用が進んでいるように感じる。引き続き授業以外の、学年活動や学校活動、生徒会活動での活用を検討していく。
	・効率的な業務運用 ・会計等運用方法の見直し	・計画的な業務計画の推進 ・成績管理システム運用を進める。 ・学校予算運用の効率化	A	順調に成績管理システムの運用ができている。浜松市の区名変更にもスムーズに対応することができた。 今後も適正かつ、効率的な会計処理等の見直しに取り組んでいく。